



▼恵乃島町で観光農園を営む佐伯さん



安来をミカン名産地に 佐伯勝美さん（島田地区）

知識も経験もなく始めたミカンづくり。本を読みあさり、生産地へ足しげく通い、栽培技術の習得に努めました。神経を使ったのは水分管理。ミカンは水分が多すぎると実が大きくなり味が落ちます。そのため、根を防水シートを敷いた上に埋め、表土はアメリカから取り寄せた特殊なシートで覆うなど、工夫を凝らしました。土壌にもこだわり、化学肥料を使わずに、ホタテ

人がつながる交流の場

21年4月ごろ。当時県職員だった佐伯さんは、定年を数年後に控え、第2の人生に果樹栽培を思いつきました。島田地区で盛んなナシやブドウでは、既存の農家には勝てないと考えていたところ、近隣の露地になったミカンをもらいました。「それがとてもおいしかったんです」と佐伯さん。温暖な気候で実るイメー

ジのミカン。調べてみると、農林水産省が勧める、年間平均気温が15度以上などの自然条件をすべて満たしており、取り組むことにしました。

丹精込めた樹は順調に生育し、退職した平成26年に観光農園をオープンさせました。「若い娘さんがおばあさんの手を引いてきたり、農園に来る家族のうれしそうな顔を見たり、とにかく交流の場になっていくことがうれしいです」と現状に目を細めます。

こだわって、完全で収穫する味の評判も上々。「とにかく甘くてジューシー」という自慢の味は、今年から高品質志向の百貨店での取引が始まります。次の目標は「安来をミカンの名産地にすること。技術を若い人たちに提供したい」と意気込んでいます。



山陰初の観光ミカン農園

たわねに実ったミカン。そばで親子の楽しそうな声が響いています。2年前に山陰初の観光ミカン園としてオープンした「やすぎ観光みかん園」。広さ16アールの敷地に4種類計170本のミカンが植えられ、秋になると大勢の観光客が訪れます。

農園主の佐伯勝美さんがミカン栽培を始めたのは、平成



◀看板ヤギ「めえ〜め〜」がお出迎え。

●やすぎ観光みかん園
開園 10月上旬～11月中旬
TEL 090 - 4578 - 8901

編集後記

▼今月号の特集は農業を取り上げました。9月は相次ぐ台風や長雨で取材が思うように進まず、改めて自然相手の厳しさを実感しました。こんな中でも市内では新たな試みがなされています。「シン・農業」と言ってもいいかもしれません。新・真・神……。一人の消費者として食を考えるキッカケになりました。特集の感想をお寄せください。(山)

▼新安来市誕生以来、ほぼ同一のデザインだった紙面を大幅にリニューアル。より親しみやすく、そして「おしゃれ」にしたつもりです。この欄は親しみやすさを感じていただくためのもので、読者との意見交換の場と考えています。今後も細かく刷新する予定ですが、男二人で担当していますので、おしゃれとは縁遠くなるかもしれません。(山)

安来市の人口と世帯数 H28.9.30現在

人口合計／ 40,018人
(男:19,150人 女:20,868人)
世帯数／14,243世帯